

琉球大学学術リポジトリ

URGCC基本方針の策定について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 天野, 智水 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41428

URGCC 基本方針の策定について

天野智水 (大学教育センター 准教授)

このたび策定された URGCC 基本方針は、1.学習教育目標、2.一貫教育、3.FD の 3 つの柱から構成されています。このうち前 2 者を中心に、私が個人的に論点と感じていた以下の 4 つを述べて報告に代えます。

第 1 は、各学部学科等（あるいは「学士教育プログラム」）が共有する全学的な学習教育目標の設定の可否でした。専門教育科目と共通教育科目に縦系を通す上で、全学的な共通目標の存在は有意義と思われれます。そこで、既に本学の理念や育成する人材像は設けられているものの、これをさらに明確に行動目標（能力）として示した 7 つの共通目標が提案されました。専門教育の目標を拘束する越権的な案と受け取られるおそれもありましたが、最終的には基本方針として認められました。今後は、既に存在している各学部学科等における目標と、この共通目標の対応関係が確認されることになるでしょう。

第 2 は、中教審答申が例を示す学士力に記載されたような多様な能力を、学習教育目標として掲げることの是非です。大学の共通目標となれば科目横断的な能力として示さざるを得ませんが、その中でも態度や意欲にかかわる能力は、大学の授業で養うことができるのか、そしてどのように評価をすることができるのか、という点はどうしても議論的になります。これに対する完璧な回答はなさそうですが、目標として掲げただけでその達成への取組みを一切放棄することは、カリキュラム・ポリシーと成績評価基準の明確化が求められる現在、認められないでしょう。

これに関連して第 3 に、4 (6) 年間を通じて達成を目指すカリキュラムの目標と、各授業科目の掲げる目標との対応関係を明らかにすることが課題となります。基本方針では、必要に応じカリキュラム・マップ等を通じて教育課程の体系化を目指すこととされました。カリキュラム・マップからは、当該能力の育成に向けてまるで薬を調合するように授業科目を盛り合わせていく様子が連想され、違和感を覚える声もあるかもしれません。けれども、各授業科目名からそれらが扱っている専門知識は把握できても、特に向上させようと意図している能力が見えにくい場合があることからすると、目標能力別に授業科目を配置した表を作る意味があるのではないかと思います。

最後に、各授業科目においてその文脈に応じた具体的な教育・学習目標が設定されることとなりますが、基本方針では、これらの目標がカリキュラムの目標のどれに対応しているかをシラバスに記載することとなっています。上述のマップを作成できるのであれば、この対応関係を示すことに困難はないはずです。しかし、第 2 に述べた課題が顕在化します。すなわち、目標に対応した成績評価基準と方法もシラバスに記載することが求められますから、態度や意欲についての評価と授業方法という課題に直面します。基本方針の 3 つ目の柱である FD には、こうした成績評価方法や授業方法に関する研究・研修が含まれるでしょう。